

折に触れ 四字熟語

NO. 345 『独鈷鎌首』 とっこ かまくび

< 意味 > 何かにつけて激しい論争になり、けんかすること。

< 出典 > 『井蛙抄』^{せいあしやう}六

故 事 : あるとき大がかりな歌合せがあった。そのときに^{けんしょう}顕昭と^{じやくれん}寂蓮は毎日参加しては激しく論争していみあった。顕昭は独鈷を手に、寂蓮は坊主頭を突き上げてやりあったので、侍女たちは「例の独鈷鎌首がまたやっているわ」と言い合った故事から。

表 言 : 寄るとさわると独鈷鎌首を繰り返す二人

語 釈 : 「独鈷」は僧が祈祷のときに左手に持つ仏具。「鎌首」は鎌の形をしたような首。蛇が直立したような首の形を指す。

一 言 : 「辞典オンライン 四字熟語辞典」というサイトの10月30日付け週間ランクで1位になっていました。このような四字熟語があることを知りませんでした。なかなか奥が深いですね。例によってこの順位の根拠、背景については分かりません。

参考文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」